

ストレスケア・思春期病棟の看護師が 再入院患者に抱く陰性感情について ～モチベーション向上にむけて～

五稜会病院 ストレスケア・思春期病棟
山本杏奈, 瀬戸優子, 上山ルミ子, 小黒たか子, 浮田志保

はじめに

- 陰性感情：相手に対する否定的な感情
- 精神科では陰性感情の研究は繰り返し行われてきた

目的

再入院患者に対して
入院当初に抱いた
陰性感情の内容と抱いた
要因を明らかにする



モチベーション向上への
示唆を得る

研究方法

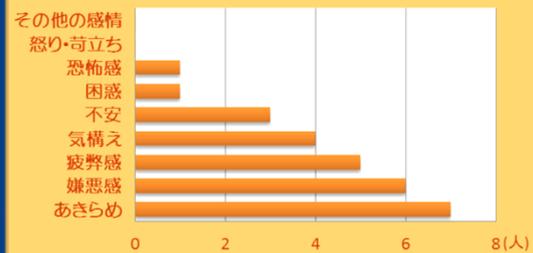
- 質問紙調査：再入院患者に対する陰性感情の内容とそれらを抱いた要因
- 対象：当病棟で2年以上勤務している看護師12名
＜分析方法＞
- 陰性感情の内容：選択式→集計
陰性感情を抱いた要因：自由記述
→カテゴリーを生成して分析

結果 1

12名中10名より回答を得た。

①再入院患者の入院時に陰性感情を抱いた経験がある：10名/10名

②陰性感情の内容



結果 2

③再入院患者に陰性感情を抱いた要因

カテゴリー	代表的なデータ
以前の患者の態度やトラブルの想起と繰り返しの予想	過去に看護師への不満、怒りが強かった 他患とのトラブルがあった
以前の看護内容の想起と繰り返しの予想、看護への期待に応えることの困難さ	NCの多さや対応の大変さ 関わっても変化が見られずやりがいを感じない時がある 家族の期待が大きいので疲れる
再入院による以前の看護達成感の喪失	関わりが密であったほど達成感がなくなり虚しい気持ちになる
再入院による治療効果への疑問	同時期入院いつものメンバーで交流する姿を見ると違和感がある

考察(再入院患者への感情について)

以前の情報がある



・手厚い看護
・アセスメントによる陰性感情の誘発

看護への期待が高まりやすい



・看護のやりがい
・期待に応えられない不安
→看護目標を共有

再入院による看護達成感の喪失



再入院の場としての選択
看護への自信に繋げる捉え

陰性感情



患者に期待する思い
前向きな気持ちの表れ

結論

- 再入院時：以前の情報による陰性感情の誘発
- 再入院した意味と陰性感情を抱いた意味とを捉え直す
→看護のモチベーション向上につながる可能性
- 再入院当初に抱いた陰性感情：その後の患者との関わりの中で消失していく可能性を持つ